

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察 特殊報 第2号

病害虫名 : サツマイモ基腐病
(病原菌 *Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman)

1 発生作物 かんしょ (さつまいも)

2 発生地域 北部地域

3 発見の経緯

- (1) 令和4年9月、北部地域のかんしょ (さつまいも) 栽培ほ場において、葉の変色 (図1)、萎凋、枯死が生じ、地際部の茎が黒変 (図2) している株を確認した。
- (2) (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所及び神戸植物防疫所において、分離した病原菌の形態の確認及びPCR法による検定を行った結果、サツマイモ基腐病であることが確認された。
- (3) 本病害は、平成30年、沖縄県において我が国での発生が初確認された。令和4年9月現在では、27都道県で発生が確認されており、本府の近隣では兵庫県、徳島県で特殊報が発表されている。
- (4) 本府において、本病害が確認されたのは今回が初めてである。

4 本病の特徴

- (1) 葉が舟形に巻くとともに株が萎縮する。また、黄、赤紫色などに葉が変色する。生育不良株では地際の茎が黒～褐色に変色し、病変部に微少な黒粒 (柄子殻 図3) が形成される。発生が甚だしいと地上部が枯死する。株元からイモへ病徴が進展するので、イモはなり首側から腐敗する。見た目が健全なイモでも、貯蔵中や輸送中に発病することがある。
- (2) 寄主作物はヒルガオ科のみであり、その中でもかんしょ (さつまいも) が主な寄主作物であることから、病原菌が感染した塊根 (種イモ) や感染苗で伝搬する。また、ほ場に残った被害残渣で越冬し翌年の一次伝染源となる。
- (3) 風雨や停滞水によって感染が広がるため、畝および畝間に沿って発生が拡大する。



図1：葉の変色



図2：地際部の黒変



図3：表面に形成された柄子殻

※図3は神戸植物防疫所より提供

5 防除方法

(1) 栽培終了後～ほ場準備

- ①病原菌は被害残渣で越冬することから、被害残渣はほ場外に持ち出し処分する。持ち出しできない場合は、収穫後速やかにすき込み、分解を促進する。その際、残渣は細断してすきこんだほうが次作の基腐病の発生を軽減できる。
- ②本病は排水不良な場所でまん延しやすいため、ほ場の排水対策を行う。
- ③発病が見られたほ場では、植付前に必ず土壌消毒を実施する（表）。

(2) 採苗後～植付前

- ①栽培に使用する苗は、未発病ほ場で生産された苗を導入する。また、未消毒の苗を使用する場合には、使用前に必ず登録農薬を使用して苗の浸漬処理を行う（表）。

(3) 本ほ

- ①ほ場をよく見回り、発病株はほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ②発病株を除去した後は周辺の株に本病に登録のある農薬を散布し感染の拡大を防ぐ（表）。また、台風などの降雨後には感染拡大の恐れがあるので、降雨前に農薬の全面散布を行なう。

(4) 年間を通じて

- ①発病が見られたほ場で使用した資材や機械、長靴を別ほ場で使用する場合、十分に消毒や洗浄を行う。

(5) 多発ほ場

- ①かんしょ（さつまいも）の栽培を中止し、他作物の栽培を行う。

6 その他参考資料

その他詳細な生態、防除対策は、農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）令和3年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」を参照する。

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_st_orage_tuber_rot_of_sweetpotator03.pdf)

表 サツマイモ基腐病の登録農薬

農薬名 (成分名)	系統 (FRAC)	希釈倍数・ 使用量	使用時期 ／使用回数	使用方法
栽培終了後～ほ場準備前（土壌消毒）				
ガスタード／ バスアミド微粒剤 (ダゾメット)	メチルイソチオシアネートジエネレーター (8F)	30kg/10a	植付 21 日 前まで ／ 1 回	本剤の所定量 を均一に散布 して土壌と混 和
キルパー (カーバムナトリウム塩) ※次作の基腐病の 発病抑制で登録	メチルイソチオシアネートジエネレーター (8F)	60 L /10a	前作の栽培終 了後から植付 の 15 日前まで ／ 1 回	前作の作物残 渣を含む土壌 表面に所定量 の薬液を散布 し、直ちに混 和し鎮圧又は 被覆する。
フロンサイド粉剤 (フルアジナム)	2, 6-ジニトロアニリン (29)	40kg/10a	植付前 ／ 1 回	全面 土壌混和
フロンサイド SC (フルアジナム)	2, 6-ジニトロアニリン (29)	500mL/10a	植付前 ／ 1 回	全面散布 土壌混和
採苗後～植付前に苗浸漬（農薬使用前に苗が消毒済みかどうか必ず確認する、またベンレート水和剤とベンレートT水和剤は同一成分を含むため、植付時までの処理はいずれか1回の使用。）				
ベンレート水和剤 (ベノミル)	MBC 殺菌剤 (1)	500～ 1,000 倍	植付前 ／ 1回	30 分間 苗浸漬
ベンレートT水和剤 20 (チラム・ベノミル水和剤)	MBC 殺菌剤 (1) ジチオカーバメート (M3)	200 倍		
本ぼ				
Z ボルドー (銅)	無機化合物 (M1)	500 倍	－／－	散布
ジーファイン水和剤 (銅・炭酸水素ナトリウム)	無機化合物 (M1) 種々 (NC)	1,000 倍	前日／－	散布
アミスター 20フロアブル (アズキシストロビン)	QoI 殺菌剤 (11)	2,000 倍	14 日前 ／ 3 回	散布
トリフミン水和剤 (トリフルミゾール)	DMI 殺菌剤 (3)	2,000～ 3,000 倍	前日／ 2 回	散布

◎防除農薬については、

- Web 版大阪府農作物病虫害防除指針

(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)

- 農林水産消費安全技術センター農薬登録情報提供システム

(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

で確認してください。